

兵庫支部を徹底リサーチするボートレースマガジン

アマボートタイムズ

AMA BOAT
TIMESPRESENTED BY
BOAT RACE
AMAGASAKI

VOL.

07

TAKE
FREE

尼崎センブルカップにてG1初優出初優勝を成し遂げた加藤翔馬選手がAMA BOAT TIMESに登場！次世代の尼崎を背負う若き才能がレースに挑む姿勢やボートレースの魅力を語ります！ほかにも場内で愛されるグルメ特集やセンタープールストーリーなど情報盛りだくさんでお届けします！



地元で行われたG1への思い

レーシングカートとの出会い

活躍のキッカケとなった新たな取り組み

AMABOAT TIMES

RACER'S
HISTORY

レーサーズヒストリー

地元G1初出場初優勝の
快挙達成

2014年11月28日、この日、加藤翔馬選手が初出走を迎えたがその類まれなレースセンスにファンは釘付けとなった。若千17歳の若武者がいきなり6コースからトップスタートを決め、冷静なレース運びで3着に食い込んだのだ。5戦目には早くも初勝利をマークするのだが、3連単は「9840円」と万舟券にはならず、加藤選手に対する期待の高さと注目度を如実に表す結果となった。デビュー節は9走し、6着はわずかに1回と並の新人の成績ではなく、ファンは地元に残った新星にますます期待を膨らませていくことになる。そしてデビュー2年2か月



で初優出初優勝をこの地元尼崎で決めてみせた。まさに順風満帆といつて良いだろう。だが20代をむかえた頃から歯がゆい時間が続く。勝てないわけでは無いが10代の頃のような底知れぬ強さとはどこか違っている、いつしか記念で戦える自信は崩れ去り、挫折も味わった。しかしレギュラーで腐ることなくからやり直したことで、一気に自身を成長させていく。生活のほぼすべてをボートレースと結びつけ、自己研鑽を積み続けた。他者から客観的に分析してもらうために、2026年からボートレース界としては珍しい「監督」にもついてもらった。その努力は実を結び、今年は上半期だけで7優出と自己最高記録の年8回に並ぶ勢いで、優勝回数はすでに最多タ

CENTER
POOL
HISTORY
センタープールヒストリー

施設改修を重ね誰しもが楽しめる

ボートレース場として生まれ変わった



常に熱気に満ち溢れるマンモス施設の誕生

モーターボート競走法が改正され恒久法となったのは昭和37年（1962年）10月1日。これにより、戦後の復興財源確保のために誕生したボートレースは、新たな役割を得たと言える。そのため、危険を伴うほどになっていた場内施設を早急に改修する必要があった。第1期工事、スタンドは鉄筋の目を見張らんばかりの近代施設として生まれ変わり、野天のままであったピットには上屋が新設され、モーター整備場にも当時の近代工具が揃えられた。選手の控室や食堂も、一棟にまとめて新設された。そして正門や入場券売場も一新され、見やすい買いやすい

ボートレース場として、当時のファンの評判を呼ぶ結果となった。その結果、昭和39年の第8回近畿地区モーターボート選手権競走では、ボートレース尼崎のすべての記録を塗り替えるばかりでなく、1日あたりの売上高も全場での新記録を樹立するまでとなった。その後も、着々と改善を進め昭和42年9月には全国に誇るマンモス施設にまで成長し、売上成績も常に全国2位を保ち、胸を張って大規模なレースを誘致できるまでに変貌を遂げるのであった。

GOURMET
REPORT

場内グルメレポート

辛さと甘みが口の中で融合！

多くのファンがこよなく愛する

揚げたてカツが最高の「カツカレー」

カレー屋さん

多くのお客様が注文するのが名物の「カツカレー」。最初にカツを食べて驚くのが、真っ先に口の中に肉の甘みが広がることだ。もちろん店内で揚げしており、カリッとした衣がロースの旨味を引き立てている。カレーのルーは、ビーフとじっくり煮込んだ野菜ソテーがベースとなっている中辛のため、辛いのが苦手な人でも問題なく食べられる。ちなみに丼ものも充実していて、ソースカツ丼も人気の一品だ。



アクセス ACCESS

編集後記 EDITOR'S NOTE

BOAT RACE 尼崎

〒660-0082

兵庫県尼崎市水明町199-1

阪神電車・尼崎センタープール前駅から徒歩3分

阪急電車・塚口駅、JR・立花駅から無料バス運行

ボートレース尼崎
オフィシャルサイト

尼崎の未来は明るいと感じる収録になりました！

加藤翔馬選手は、両親のすすめで子どもの頃からレーシングカートに取り組んでいて、現在もスピードの中での駆け引きや判断力を鍛えるためにカートを続けていると収録の中で話していました。そして、自分自身のように小さい頃からカートに乗っている子ども達に大会で頑張ったご褒美として、自費でボートレースグッズをプレゼントするなど、ボートレースを知るきっかけづくりも行っています。その姿に憧れ、「将来ボートレーサーになりたい」と話す子どもたちもおり、加藤選手は、そうした子どもたちの中から将来ボートレーサーが生まれたらとても嬉しいと話してくれました。まだ、サクセスストーリーは始まったばかり。これからの飛躍に注目です！

Thank you!



プライベートでも常に ボートレースを意識し続ける 「加藤翔馬」が見せる素顔

■ 登録番号/4857 ■ 登録期/115期 ■ 生年月日/1997年5月9日
■ 級別/A1級 ■ 身長/171cm ■ 体重/56kg ■ 血液型/A型 ■ 出身地/兵庫県



仲良しなレーサー

ボートレース中心の生活をしている中で、同期との旅行や、仲の良いメンバーで出かけたりするのが良い息抜きになっています！右の写真は福田翔吾選手(左奥)、中村魁生選手(右前)とキャンプに行った時の1枚です！福田選手は料理が得意でシェフみたいに作ってくれます！



車について

車が大好きです！サーキットカーはもちろんなんですが、キャンピングカーのような車中泊ができる車も気に入っていて、みんなで山に行ったりもします！



PERSONAL Q&A

- Q** 体調管理で気を付けていることは？
A 口にするものだと添加物にまで気を付けています
健康オタクだと思います(笑)
- Q** レーサー以外の職に就くなら？
A 「安定」した職業をやりたいです
- Q** 最近、旅行で行った場所は？
A 沖縄
権ちゃん(権藤俊光選手)を隊長に同期と行きました
- Q** 絶対にレース場に持っていくものは？
A バナナ、キウイ、ヨーグルト
一節分持っていくので荷物が凄く多い方です
- Q** 今の癒しは？
A ペットと遊ぶ
猫を飼っていて今年犬が仲間に入りました！

- Q** 他のスポーツ選手と交流は？
A モータースポーツ選手が多いですね。
幼馴染で元プロボクサーの
丸田陽七太さんとも仲良しです！
- Q** レースに挑む際のジンスやルーティーンは？
A ボートに乗艇する前に
少しジャンプをして筋肉を緩める
意識をしています
- Q** 好きな食べ物は？
A うなぎ、ラーメン、スイーツ
特にラーメンは師匠の白石健さんに
たくさん案内してもらいました！
- Q** 勝負事においては「データ派」？「直感派」？
A 完全に「**直感派**」です
身体が勝手に動くように日々訓練をしています

TO TRAIN

日々のトレーニング

パーソナルトレーニングや、レーシングカートでレースもしますし、バイクや車のサーキットにも行ったりします。目を鍛えるのは難しいので、モータースポーツでのトレーニングは相手との距離感覚や反射的に身体を動かすことに繋がっていると思っています。

ボートレースの魅力

競技者としては、他のモータースポーツと違って性別年齢関係なく対等にレースが出来る点です。特にボートレースは年齢が上がるにつれ経験値で上達することができ、ベテランの技が魅力的なスポーツだと思います。

AMABOAT TIMES

Report!

RACER'S INTERVIEW

レーサーズインタビュー

ボートレーサーとしての
これまでとこれから



尼崎センプルカップの優勝
おめでとうございます！

ありがとうございます！初めの地元周年ということもあり、前検に入る前から「今節はやてやろっ！」という以上に強い気持ちをもって臨んだ1節でした。過ぎたことはすぐに切り替えて次に向かう性格なのですが、あの時の緊張感や喜びはまだ忘れられません。

予選は未勝利ながら
トップでクリア

先輩から教えて頂くまで、トップ通過ということは実は知りませんでした。番組表が配布されて初めて実感できたくらいです。ここで一段ギアが上がり、「こんなチャンスはないな、絶対勝つぞ」と、強く心に誓いました。

準優勝戦は伸び型の強力メンバー6号艇にチルト3度が予想される菅章哉選手がいたのですが、それ以上に5号艇で地元の大先輩の吉川元浩選手に捲られるのとは感じ強く意識しました。

色々考えて眠れなかったのでは？

いや、いつも通りぐっすりと眠ることが出来ました(笑)もともとあま

り考えるタイプではないですし、自分の身体が勝手に動いてくれると思っていますので、本当に「いつも通りでした」。

先輩方から頂いたアドバイス

まわりの先輩方からアドバイスや激励を頂き、優勝戦に臨むことが出来ました。鈴谷平選手がサウナに毎日付き合ってたことだったので、そこに宮地元輝選手もいらっ

すが、そこについてアドバイス頂けたのも凄く大きかったです。自身で分かっていたながら直していなかった点をご指摘いただき、その点を優勝戦で強く意識して挑むことが出来ました。

「いつも通り」挑めなかった優勝戦
いつも通りに過ごしていたつもり
だったのですが「フレッシャー」を感じ
ているな……」ということこそ自分
自身でも感じました。もともと
緊張はしないタイプではあるの
ですが……。

しかし、同期の豊田健士郎選手に「大丈夫だぞー」と激励してもらったことで、しつかり安心することができ、レースが始まる頃には程よい緊張感で挑むことができました。

G1初優勝初優勝

フアンの皆様の声援が凄くてびっくりしました。1周1マークは足が仕上がっていた2号艇の山田康二選手よりも絶対に先に回るぞというのを最優先に意識していません。最後まで気が休まることは無く、ミスなく回りきる事だけを考えてレースをしていました。

ゴールした際には
力強いガッツポーズ

「ガッツポーズだけは絶対にしないでおこう」と思ってたので、本当はゴールラインを切った時になぜか勝手にしていました(笑)前検からの強い気持ちが自然と爆発したのだと思います。表彰式では本当に多くの方が残ってくれたので凄く嬉しかったです！



心に残ったメッセージ
もちろん師匠の白石健さんをはじめ、多くの方から祝福を頂いたのですが、やまと学校(ボートレーサー養成所)の主任教官だった小林教官からメッセージを頂いたときには感動しました。

S G挑戦の権利もゲット

尼崎センプルカップを優勝できたことで、SGを意識することができるとなりました。遠い存在だと思っていたSGが一気に近くなったので、目標として頑張りたいと思います。同期にはすでにSGウィナーもいますので、負けてられないという気持ちです。

それと、年末のグランプリシリーズですね。本音はグランプリ出場を目指したいのですが、今年は雰囲気を感じさせてもらい、来年は挑めるように頑張ります。

今年になって変わったこと

もともと経験していたモータースポーツの世界では「監督」という存在があったのですが、今年から自分も取り入れさせてもらいました。客観的に自分の癖を分析してもらったり、モーターに関するアドバイスなど、他競技の知識も取り入れながら意識の変化を目指しています。

18、19年には
フレッシュルーキーにも選出

選出して頂いたことは嬉しかったのですが、記念などを走らせて頂けるようになり、自身の実力の無さに気が付くキッカケにもなった出来事でした。勝手に「通用するのではないか」と思っていた時期だったこともあり、挫折を味わいました。1からやり直す良い機会になったと思います。

レーシングカートを
始めたキッカケ

父の勧めです。私に将来はボートレーサーになつて欲しかったよう

で、良い経験になると考え始めさせてくれました。結果、小学校低学年から僕はボートレーサーになるんだ」と当たり前のよう

に思っていました。受検資格を得られてすぐに受けたのですが、その時は3次試験で落ちてしまいました。そして、2度目の挑戦で晴れて合格をするこ



養成所時代の思い出

正直、カートもやっていたので入学前は自信もありましたし、ただ卒業するのではなく、ブッチギリのトップで卒業すると思っていた

しかし、入学してみた周りみんな凄くてトップには全然届かなかったんです。16歳でしたし、あの頃は子供でした(笑)みんなが大人に感じましたし、何よりお兄さんお姉さんのように優しく接してくれていました。同期も多いですから、切磋琢磨してみんなでグラ

ンプリに挑んでみたいです！

フアンの皆様へメッセージ

これからの魅力あるレースを1走でも多くして、たくさん舟券に貢献できるように頑張ります！熱いご声援をよろしくお願い致します！